

新型コロナウイルス感染症の影響で、聞法の機会が大きく失われてしまいました。このような時にすこしでも皆様に仏法に触れていただけるよう、紙面1枚程度の短い法話を連載いたします。

小松教務所

身を据えて、本当の願いに耳を傾けたい

こんにちは。2020年も残すところ、あと二月ふたつきとなりました。私の暮らす白山麓は、冬に向けて着々と準備を進めているようです。皆さんは、心身ともにいかがお過ごしですか？

私は、今年の春から小松大谷高校に勤めることとなり、生徒たちと一緒に宗教を学んでおります。授業では、様々な人の人生経験や言葉を通して「人間」ということ「生きる」ということについて考えています。生徒たちと一緒にいると自分の生き方(日常生活)が問われるばかりです。

正信偈 貪愛瞋憎之雲霧 常覆真實信心天

「ああ、私は結局、いつも自我煩惱に覆われて、生きているのだなあ」「真実を見失ってしまうのは、他でもない私自身の自我自欲のせいなんだなあ」と気づかされる毎日です。

皆さんは、自分の日常生活(人生)をどのように受けとめておられますか？忙しい日々の中でも、身を据えて“人生”ということについて思い深めていく時間や場所はお持ちですか？

蓮如上人
御一代記聞書

行くさきむかいばかりみて、足もとをみねば、踏みかぶるべきなり。人の上ばかりにて、わがみのうえのことをたしなまずは、一大事たるべき

学校では、朝礼時、また宗教の授業の初めに‘瞑想’という時間が設けられています。姿勢を整え、心を落ち着けて、自身の今を振り返り、自分

と対話する時間です。一学期当初は、なぜ‘瞑想’という時間があるのかと疑問でしたが、今はこの時間の大切さを実感しています。なぜなら、人間はみな、進むことばかりを求め、又、停滞していることに疑問を持たずに過ごしてしまいがちだからです。そこに大きく深い“空過”という落とし穴があるのではないのでしょうか。自分でありながら自分を見失う、人間の迷いの姿がここにあります。「私は間違っていない」「私が間違えるはずがない」「あいつが間違っているに違いない」と、あらゆる縁に対し、正義に立つ私たちは、わかったつもりになって過ごしているのではないのでしょうか。自分の行動や言動(日常生活)を振り返ることのない生活に、足場の定まらない危うさを感じるのは私だけでしょうか。

高僧和讃

本願力にあいぬれば おなしくすぐるひとぞなき
功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし

今も昔も人間は「忙しい日々」を繰り返してきました。現代だから忙しいのではありません。生きる人間に与えられた忙しさは、生きる為、生活する為(煩惱満足)なのです。しかし、そんな日常の中でも、しっかりと身を据えて、自分を見つめ、向き合い、対話する時間と場所をお伝え下さったのが、私たちの先祖先達なのではないのでしょうか。その先達は、自分の迷いの人生を経て「自分という者の正体を忘れるな」「仏のお心(南無阿弥陀仏)を忘れるな」と空過することのない人生を願って、お内仏のある生活をお伝え下さっているのではないのでしょうか。その大きな願いの中に、私たちが本当に生きられる(存在満足＝生きがいある)道が開かれていくように思えてなりません。今、人間社会(五濁の世)は、生産、利益、成果主義と言われます。この世界に、誰もが平等に感じられる“生きがい”はあるのでしょうか。今一度、お内仏と、お念仏と、自分自身に、一人ひとりが向き合う時なのではないのでしょうか。

